

重点戦略2 地域づくり活動の活性化

リノモ沿線に新たな住民を迎えて地域として発展していくためには、地域に対する愛着や地域の中で安心して暮らし続けられるコミュニティの形成が重要である。

そのため、持続可能なコミュニティの形成に向け、美化・緑化活動や防犯・安全活動等の地域住民が主体となったコミュニティ活動の育成に取り組む。

また、沿線地域と大学の交流を活発化し、大学が持つ知的資源や学生の視点、アイデアを地域づくりに生かすとともに、大学の研究やフィールドワークにおいても、リノモ沿線の活用を促していく。

更には、愛・地球博記念公園内の「地球市民交流センター」等における活発な市民活動を促進し、市民力の充実・発展に取り組む。

【主要施策】

⑤沿線住民や沿線大学・学生と協働した地域づくり

沿線地域の魅力の創出に向け、沿線住民や沿線大学及びその学生と連携して、まちとしてのブランド、魅力的な街並み、特定の世代に偏らない持続可能なコミュニティの形成等の地域づくりを進める。

(沿線住民と協働した地域づくりの推進)

- リノモ沿線の地域づくりにおいては、環境問題、防災、緑化、福祉、子育てなど住民の自主的な活動が重要である。沿線住民の地域づくりへの関心を高め、地域づくりへの参画を促すとともに人材の育成を図るため、ワークショップやシンポジウムを開催する。
- 市街地整備に向けた検討を行っている八草駅周辺地区では、八草地区の将来を考えた安全・安心な生活環境の形成や駅周辺の活性化を目指し、引き続き、八草まちづくり推進委員会において、住民が主体となったまちづくりに取り組む。

(沿線大学・学生と協働した地域づくりの推進)

- 沿線市では、大学の持つ知的財産や人材、学生の力といった資源を活用したまちづくりを進めるため、「教育や文化の振興」、「まちづくり」、「生涯学習の推進」等に関して大学と連携協定を締結し、連携事業を行っている。

また、大学も地域連携センター等を設置し、公開講座を始め、小中高校生を対象とした科学教室、学生の地域活動やボランティア活動への参加支援等の社会貢献、地域連携の取組を行っている。

そうした動きをリノモ沿線の地域づくりに生かし、沿線大学及びその学生と協働して、市民講座や沿線活性化イベントの実施、学生による地域の情報誌作成や地域づくりの調査研究等を行う。

＜沿線市と大学の包括連携協定の状況＞

市	包括連携協定締結先
瀬戸市	(大学コンソーシアムせとに関する包括協定：2003.6.3) 愛知工業大学、金城学院大学、名古屋学院大学、名古屋産業大学、南山大学
豊田市	愛知学泉大学、愛知工業大学、中京大学、 日本赤十字豊田看護大学、豊田工業高等専門学校（2013.3.29）
日進市	名古屋外国語大学・名古屋学芸大学・名古屋学芸大学短期大学部（2010.2.1） 愛知学院大学（2010.4.22）、名古屋商科大学（2011.2.2）、 愛知淑徳大学（2012.5.18）、椋山女学園大学（2012.8.8）、中部大学（2013.11.5）
長久手市	愛知県立芸術大学（2010.6.24）、愛知淑徳大学（2010.10.14） 愛知医科大学（2012.1.19）、愛知県立大学（2012.5.10）

⑥市民活動の活性化

愛・地球博において、若者、女性、高齢者等、様々な人々による市民交流が活発に行われた。引き続き、国際交流、文化・芸術、環境保全、地域安全等の様々な分野の市民活動が展開されるまちづくりを進める。

（市民活動を促進する環境づくり）

- ・ 愛・地球博記念公園に整備された地球市民交流センターを NPO 等と協働で運営し、環境保全、生物多様性、エネルギー教育等の「環境」、国際交流、食育・地域交流等の「交流」をテーマとした団体向け体験学習プログラムや料理教室、工作教室等の一般向けプログラムを実施する。また、センター内の「体験学習室」、「多目的室」、「多目的スタジオ」等を NPO 等が実施するイベント、講演会、展示会等の場として提供する。
- ・ 瀬戸万博記念公園において、「市民参加」、「交流」、「自然との共生」を未来につなげていく交流拠点として、様々な市民活動が引き続き展開されるよう支援する。
- ・ 海上の森において、県と NPO、地元自治会、企業等の多様な主体が協働して、森林・里山の保全活動、里の歴史や文化の学習、自然環境教育等の取組を実施するほか、地域の森林・里山で活動する指導者を育成する。
- ・ 長久手古戦場駅前に整備するリニモテラス公益施設を拠点として、学生や NPO 等による交流を推進する。



瀬戸万博記念公園



海上の森におけるセミナーの様子

【主要施策一覧】 ～重点戦略2 地域づくり活動の活性化～

具体的な取組	2016	2017	2018	2019	2020
⑤沿線住民や沿線大学・学生と協働した地域づくり					
沿線住民と協働した地域づくりの推進	ワークショップやシンポジウムの実施 八草まちづくり推進委員会におけるまちづくりの検討				
沿線大学・学生と協働した地域づくりの推進	市民講座や活性化イベントの実施 学生による地域情報誌の作成や調査研究の実施				
⑥市民活動の活性化					
市民活動を促進する環境づくり	地球市民交流センター、瀬戸万博記念公園、海上の森における市民活動の支援				
	リニモテラス公益施設の整備		リニモテラス公益施設における学生・NPO等による交流の推進		

2 訪れたいくなる沿線づくり

重点戦略3 観光やイベントによる交流の推進

リニモ沿線には、愛・地球博記念公園、トヨタ博物館、愛知県陶磁美術館等、本県のみならず、全国や海外からも集客できる質の高い文化・レクリエーション施設が立地するほか、先端の研究開発施設や地域の歴史や文化、ポップカルチャー等の地域資源がある。

そこで、多くの人々が活発に交流する地域づくりに向け、沿線施設の更なる充実を図るとともに、地域資源を活用して沿線ならではの魅力の創出、沿線内外への発信を行い、リニモ沿線の観光交流を推進する。

【主要施策】

⑦愛・地球博記念公園の充実強化

2005年（平成17年）に開催された愛・地球博は、会期中の185日間に、国内外から2,200万人が来場し、活発な市民交流が行われるなど、この地域に大きな影響を与えた。

その愛・地球博長久手会場の跡地に整備された愛・地球博記念公園は、194.2haという広大な敷地に、各種スポーツ施設の他、「サツキとメイの家」等の愛・地球博を懐かしむ施設もあり、年間約160万人が訪れる沿線の中心的な集客施設となっている。

引き続き、園内施設の整備・充実を図るとともに、魅力あるイベントの開催等、万博の開催地という知名度を生かし、公園の賑わいづくりを進める。

（愛・地球博記念公園の整備やイベントの開催）

- 沿線における中心的な集客施設として、引き続き、キャンプ場（デイキャンプ場）等の県民が楽しめる施設を整備するとともに、公園の特徴を引き出しつつ、民間事業者の活用も検討しながら新たな魅力の創出に努める。
- 愛・地球博記念イベント「モリコロパーク春まつり・秋まつり」等のイベントや公園施設を活用したスポーツ大会の開催のほか、新たに整備した野外ステージを活用した音楽イベントを実施する。
- 愛知県児童総合センターで、児童の健全育成の推進のため、人気の高い粘土を利用した体験プログラムや学校長期休業期間を活用した「あそびの企画展」の実施等、年間を通していつでも、年齢や対象を問わず誰でも参加できる「あそびのプログラム」を実施する。
- リニモの公園西駅周辺は、大型商業施設の出店予定等、今後、市街地整備が進んでいく地域である。2015年（平成27年）8月には公園西駅ロゲートを設置し、公園西駅から公園へのアクセスを充実したことから、公園西側エリアに位置する「こどものひろば」については、より一層の魅力向上や賑わい創出を図るため、民間のユニークなアイデア等のノウハウを生かした新たな公園施設の設置等を検討する。

<愛・地球博記念公園の概要>

- 公園全体面積：約 194.2 ha
- 公園開園時間：8:00～19:00 (11月～3月は18:30まで)
- 駐車場台数：約 1,800 台 (北駐車場 1,057 台、南駐車場 392 台、西駐車場 362 台)



⑧地域資源の活用による魅力向上

日本で唯一の磁気浮上式リニアモーターカーであるリニモ、「知の拠点あいち」など最先端の試験研究機関、豊かな自然環境、陶磁器や自動車といったモノづくり技術のミュージアム、「小牧・長久手の戦い」などの歴史遺産、ポップカルチャー等、この地域ならではの地域資源を活用して、沿線地域の魅力を向上させる。

(観光資源としてのリニモ活用)

- ・ これまで愛・地球博の代名詞でもあるリニモは、動くパビリオンとして多くの人々がその技術を体感してきた。このリニモの乗車を観光の一つとして捉え、「滑らかな乗り心地」や「技術のすごさ」を実感する「リニモ体験ツアー」を実施する。昨今、アジアを中心とした人々の訪日が急増していることから、そうした訪日外国人もターゲットに、記念乗車証を発行するなど、リニモの魅力を発信する。
- ・ 騒音が少ないという特性からリニモの高架には防音壁がないため、近くは沿線の田園風景や名古屋の夜景、遠くは鈴鹿山脈や猿投山まで見晴らすことができる。また、貸切りやラッピングするサービスもあり、こうしたリニモの眺めの良さやおしゃれな車両を活用し、クリスマストレイン・合格祈願列車等の企画列車や、演奏会・結婚式等のイベントの場としての活用等、より多くの集客を目指し、観光資源としてのリニモを積極的にPRする。
- ・ 更には、車両基地見学の実施により小中学校の社会見学の受入れを拡大する。



貸切りリニモ



リニモからの展望



リニモ車両基地

(試験研究機関等の公開)

- ・ 「知の拠点あいち」において、研究内容に対する県民の理解や科学技術の普及啓発を図るため、科学技術展示コーナー、モノづくり体験コーナー及び新エネルギー普及啓発コーナーを設置し、見学者の受入れや小中学生を対象とした科学教室、サイエンスフェスタ等を開催する。



新エネルギー普及啓発コーナー



こども科学教室



サイエンスフェスタ

- ・ 愛知県農業総合試験場では、農業に対する県民の理解を深め、農業における試験研究の役割と重要性を理解してもらうため、研究成果の紹介や研究施設の見学、農業や農産物に関連した実験の体験、生産物等の販売等の最新の農業技術を体感できる「農業総合試験場公開デー」を開催する。
- ・ また、大学では、愛知工業大学のロボットミュージアム等の研究成果を地域に公開する取組が行われているため、そうした取組と連携し賑わいの向上を図る。

(体験型学習の実施)

- ・ 沿線には、あいち海上の森センター、愛・地球博記念公園内のもりの学舎、平成こども塾等、自然とのふれあい、食や農の体験を通じて、楽しみながら学べる施設がある。

また、2013年(平成25年)6月には、新たに、愛・地球博記念公園内に、田畑や果樹園等の農業体験ができる里山実験フィールド「あいちサトラボ」の「農のエリア」がオープンした。

引き続き、それらの施設を拠点に、四季を通じて、豊かな自然の観察や自然の素材を使った工作、また農作業等の自然にふれあう体験型学習を実施する。



海上の森「森の楽校」



もりの学舎



平成こども塾

(沿線の歴史や文化・芸術の魅力向上)

- ・ 陶磁資料館南駅の周辺には、やきものを専門とする国内屈指のミュージアム「愛知県陶磁美術館」がある。愛知県陶磁美術館では、収蔵する古代から現代までの国内外の陶磁作品を展示するほか、様々なテーマによって、多種多様な陶磁作品を紹介する企画展や特別企画展を開催していく。

また、陶磁文化の普及を図る取組として、陶芸教室や講演会等を実施するほか、南館において、「愛知のやきもの」の歴史や魅力を子供たちに伝えることを目的とした展示を行っていく。

更には、本県の陶磁文化振興の拠点施設として、あいちトリエンナーレを始め、様々な文化芸術関連事業と連携を図るなど、賑わい創出に取り組んでいくほか、訪日外国人の誘客を目指し、外国人対応の充実を図っていく。

- ・ 文化施設での交流活動を促進するため、長久手市文化の家を始めリニモやモリコロパーク等を会場に、親子向けの音楽イベント「おんぱく〜音のテーマパーク」を開催する。

- ・ リニモ沿線には、愛知県陶磁美術館以外にも、トヨタ博物館、名都美術館、愛知県立芸術大学や名古屋学芸大学等の文化・芸術に関連した施設が立地しているほか、古戦場公園に代表される「小牧・長久手の戦い」に関連する歴史遺産がある。これらの施設が連携したイベントの実施等により、多くの人々に、沿線の歴史や文化・芸術の魅力を知ってもらい、この地域全体の活性化と地域文化活動の振興を図る。

<愛知県陶磁美術館の概要>



本館

7つの展示室にて、縄文時代から現代に至るまでの日本のやきものの歴史や外国陶磁等を紹介する常設展と、多彩なテーマによる企画展・特別企画展を行う。



南館

2016年2月に展示リニューアルを実施し、「もっと伝えたい、愛知のやきもの」をテーマに、子どもから大人まで楽しく鑑賞できる展示へと生まれ変わる。

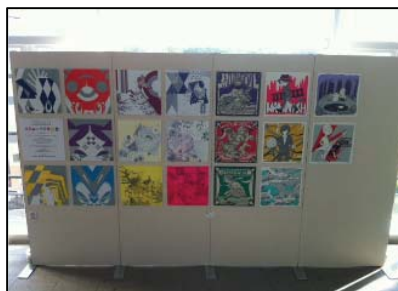


陶芸館

陶芸指導員の指導のもと、「作陶」や「絵付け」の体験ができる。

(ポップカルチャーを活用した地域活性化)

- ・ 近年、クールジャパンの一環として、アニメ、ゲーム、コミック、コスプレ等のポップカルチャーは大きな注目を集めており、ポップカルチャーが地域の魅力を向上させるツールとして期待が高まっている。これまで、リニモ沿線をポップカルチャーの発信地として「愛知ぼふかる聖地化計画」に取り組み、地域の大きなブランドとして定着してきたことから、今後はより一層、大学や企業等と協働し、ポップカルチャーを活用したイベントの開催、沿線の情報発信やリニモの駅での作品展示といった「リニモアートステーション化計画」等を推進し、沿線の賑わいづくりに取り組む。



リニモアートステーション化計画

(リニモ沿線活性化事業の実施)

- ・ リニモ沿線の文化・レクリエーション施設、試験研究機関、大学と連携し、ウォーキングイベントや体験イベント等を共同で実施する。
- ・ 長久手市の観光交流まちづくりの基本方向として、地域で発掘する「心地よい空間（サードプレイス⁶）」を来訪者に提供し、体験してもらいながら、住民と交流を行う「観光交流まちづくり」を進める。具体的な展開イメージとしては、地域の様々な観光ポイントを「文化」や「農」等のテーマで結び、その中にサードプレイスとなりうる場所も加えながら、公共交通と徒歩や自転車を使って回遊することが考えられ、そのためのルートの設定等を検討していく。
- ・ リニモ沿線に集積している様々な大学の学生同士の交流が始まっており、地域全体で学生の活動を盛り上げるため、沿線大学が連携した地域活性化のイベントや交流事業を支援する。
- ・ リニモ沿線活性化事業の実施に際しては、新たな参加者の獲得を目指して、スマートフォン向けアプリやAR（拡張現実）技術、GPS機能等を活用した現地観光情報の提供や写真撮影、スタンプラリー等の取組を検討していく。

⑨広域連携による観光の推進

愛知県内には、リニア・鉄道館やトヨタ産業技術記念館等、「のりもの」や「モノづくり」といったリニモ沿線の施設と同様のコンセプトを持った観光資源がある。また、県営名古屋空港では、航空機に関する見学者受入拠点施設の整備も進められており、こうした観光資源と、リニモ沿線施設を結ぶモデルルートを開発することにより、日本版 DMO⁷の推進等、地域の観光を推進するプラットフォーム形成促進の一助とするとともに、県内はもとより、首都圏や海外からの訪日外国人も視野に入れ、沿線地域への誘客を図る。

(域外観光施設と連携した誘客の推進)

- ・ 沿線地域外の観光施設と連携し、のりもの観光や産業観光等のテーマで、外国人、ファミリー、女性等の利用者層を考慮しつつ、地域外の観光施設等と周遊する広域観光モデルルートを作成する。
- ・ 岐阜県と連携してリニモ沿線の産業観光施設を盛り込みながら、モニターツアーを実施しており、その成果を踏まえ両地域の産業観光施設のネットワークや体験型バスツアー等の旅行商品造成を目指す。
- ・ ラグビーワールドカップ 2019 等のスポーツ大会やその他のイベント等で愛知県を訪れる人々を沿線地域に取り込むための情報発信や観光ルートを検討し実行する。

⁶ 社会学者のレイ・オルデンバーグは、都市生活者にとっての自宅、職場に次ぐ第三の居場所としてサードプレイスという概念を提唱している。くつろいだ時間を過ごしたり、友人知人と語らうためにそこに集うのである。オルデンバーグは、こうしたサードプレイスの存在が都市の魅力を高め、都市生活者にとっての豊かな生活をもたらすと考えている。

⁷ Destination Marketing/Management Organization の略。地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに、地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりを行う推進主体で、具体的には、地域において、様々な資源を組み合わせた観光地の一体的なブランドづくり、ウェブ・SNS 等を活用した情報発信・プロモーション、効果的なマーケティング、戦略策定等を行う。

(プロモーション活動の実施)

- ・ 広域からの誘客を図るため、名古屋駅や岐阜駅等の交通の要衝はもとより首都圏においても、リニモのキャラクターとして親しまれている「リニモたん」や沿線地域のキャラクター等を用いて、沿線地域の魅力を発信するなど、産学官が一体となったプロモーション活動を実施する。

				
愛知ぼぶかる聖地化計画のキャラクター「リニモたん」「ぼぶかる」「エネミィ」	瀬戸市イメージキャラクター「せとちゃん」	豊田市観光協会マスコットキャラクター「ももたファミリー」	日進市マスコットキャラクター「ニッシー」	長久手市広報ナビゲーター「クレーテシガーナ」

⑩沿線情報の一体的な発信

長久手市では 2016 年（平成 28 年）1 月に観光交流協会が設立し、日進市においても、観光協会の設立に向けた取組が進められるなど、新たな情報発信主体形成の動きがある。また、リニモ沿線には、愛・地球博記念公園や古戦場公園等の県や市の施設のほか、トヨタ博物館、名都美術館といった多くの民間の施設があり、様々なイベントが開催されている。沿線地域が連携して情報の集約化を図り、地域外の人でもわかるような情報発信を行う。

(各種媒体での情報発信)

- ・ 春休みや夏休み期間中に沿線地域で開催されるイベントを取りまとめた「リニモ沿線イベントガイド」や沿線地域のグルメやレジャースポット等の地域の魅力を紹介する「地域情報誌」を発行し、沿線内外の様々な施設やイベント等において沿線地域を PR する。
- ・ インターネットを活用し、引き続き、フェイスブックページ「リニロコとぴっくす」やツイッターにより、沿線の魅力やイベント・観光情報をタイムリーに発信するほか、リニモからの車窓や沿線施設を紹介する動画「リニモの車窓から」を公開する。
- ・ 沿線地域の集客施設や交通機関では、訪日外国人向けに、多言語パンフレット等の作成を行っているほか、リニモの主要駅では、外国人観光客の利便性のため、駅構内での Wi-Fi サービスを開始した。増加している訪日観光客をリニモ沿線に取り込むため、沿線大学の留学生等と協力しながら、外国人旅行者が利用しやすい PR ツールの作成を検討する。

<リニモ沿線及び周辺の主な施設>

所在市町村	施設名等	来訪者数等(人/年)	所在市町村	施設名等	来訪者数等(人/年)
瀬戸市	瀬戸万博記念公園	34,000	日進市	岩崎城址公園	45,509
	海上の森	95,800		五色園	—
	あいち海上の森センター	17,944		白山宮	—
	愛知県陶磁美術館	125,372		名古屋外国語大学・名古屋学芸大学口論義運動公園	221,253
	瀬戸蔵ミュージアム	34,828	長久手市	愛・地球博記念公園	1,586,500
	招き猫ミュージアム	25,220		古戦場公園野外活動施設	35,352
	瀬戸デジタルリサーチパークセンター	31,377		色金山歴史公園茶室	12,369
豊田市	豊田スタジアム	1,690,277		トヨタ博物館	244,385
	スカイホール豊田	477,604		名都美術館	31,830
	猿投温泉	310,946	長久手温泉ござらっせ	423,711	
	豊田市美術館	51,544			
	とよたエコフルタウン	65,507			

資料：愛知県「平成26年観光レクリエーション利用者統計」、各市統計書等から作成
来訪者数等は平成26年1月から12月までの累計。

ただし、豊田市美術館は平成26年1月から9月までの累計。岩崎城址公園、名古屋外国語大学・名古屋学芸大学口論義運動公園は平成26年4月から平成27年3月までの累計。

<リニモ沿線及び周辺の主なイベント>

市町村	行祭事・イベント	来訪者数等(人/年)	市町村	行祭事・イベント	来訪者数等(人/年)
瀬戸市	せともの祭	490,000	日進市	岩崎城 春まつり	25,000
	せと陶祖まつり	73,000		にっしん夢まつり	130,000
	来る福招き猫まつりin瀬戸	84,000		にっしん市民まつり	27,500
	陶のまち瀬戸のお雛めぐり	112,000	長久手市	ながくて市民まつり	18,000
	せと・まるっとミュージアム大回遊	33,000		古戦場桜まつり	8,000
	せとなつ	94,000		モリコロパーク夏まつり	20,200
豊田市	豊田おいでんまつり	507,580		トヨタ博物館クラシックカー・フェスティバル	20,000
	拳母まつり	100,000		モリコロパーク春まつり	25,000
	小原四季桜まつり	153,198	モリコロパーク秋まつり	26,300	

資料：愛知県「平成26年観光レクリエーション利用者統計」、各市統計書等から作成

【主要施策一覧】 ～重点施策3 観光やイベントによる交流の推進～

具体的な取組	2016	2017	2018	2019	2020
⑦愛・地球博記念公園の充実強化					
愛・地球博記念公園の整備やイベントの開催	キャンプ場等の整備、イベント等の開催、児童総合センターでの体験プログラムの実施、「こどものひろば」の魅力向上の検討				
⑧地域資源の活用による魅力向上					
観光資源としてのリニモ活用	リニモ体験ツアー、企画列車・イベントの場としての活用、車両基地見学の実施				
試験研究機関等の公開	「知の拠点あいち」における見学受入れ、科学教室等の実施 農業総合試験場公開デーの実施、大学の公開との連携				
体験型学習の実施	あいち海上の森センター：里と森の教室、調査学習会、 森林・里山の指導者育成等の実施 もりの学舎：インタープリターと歩くもりのツアー、工作体験等の実施 平成こども塾：農作業や料理体験、工作体験の実施 あいちサトラボ「農のエリア」：稲作、野菜、果樹作り体験				
沿線の歴史や文化・芸術の魅力向上	愛知県陶磁美術館における常設展、企画展、講演会、やきもの体験の実施 親子向け音楽イベント「おんぼく」の開催 文教施設連携による交流イベントの開催				
ポップカルチャーを活用した地域活性化	ポップカルチャーを活用したイベント開催等 リニモアートステーション化計画の推進				
リニモ沿線活性化事業の実施	リニモウォーキング、わくわく体験リニモツアーズ、夏休みリニモ親子教室等の開催 観光資源とサードプレイスを連携した回遊ルートの設定等の検討 沿線大学学生等による地域活性化事業への支援 スマートフォン向けアプリやAR技術等を活用の検討				
⑨広域連携による観光の推進					
域外観光施設と連携した誘客の推進	モデルルートの作成、PR等 岐阜県と連携した産業観光施設のネットワーク化 イベント等で沿線周辺に訪れる人の誘客の検討・実施				
プロモーション活動の実施	プロモーション活動の実施				
⑩沿線情報の一体的な発信					
各種媒体での情報発信	リニモ沿線イベントガイドの発行（春休み期間、夏休み期間） 地域情報誌等の作成 フェイスブックページ「リニロコとぴつくす」の運用 ツイッターの運用 リニモ沿線紹介動画「リニモの車窓から」の公開				

重点戦略4 研究開発機能の充実

リニモ沿線には、愛知県立大学、愛知工業大学、愛知県農業総合試験場、豊田中央研究所等、科学技術に関連する拠点施設が立地しているほか、陶磁資料館南駅の北側では、「知の拠点あいち」の整備を進めている。

また、沿線地域の外においても、概ね30分移動圏内に、名古屋大学、名古屋工業大学、名城大学、豊田工業大学、産業技術総合研究所中部センター、自動車関連企業が集積する西三河地域を有し、研究機能と産業利用機能が一定の範囲に集積している。

そこで、「知の拠点あいち」を中心に更なる研究集積を図るとともに、沿線地域内外に関わらず、大学、研究機関、民間企業等と相互連携を密にし、多様な共同研究や実証実験を展開し、研究開発による活発な交流を推進する。

【主要施策】

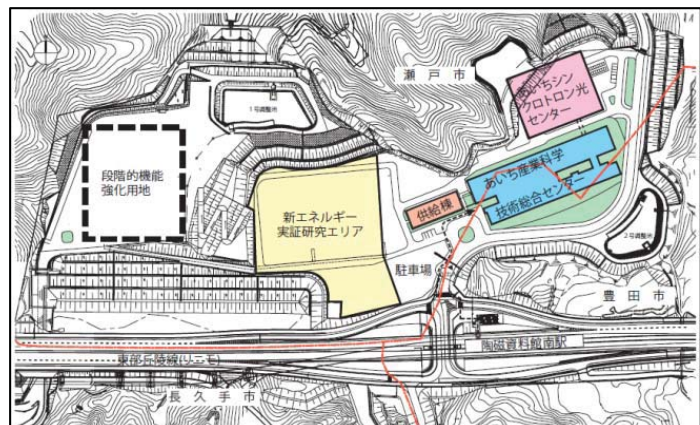
①国機関等の研究施設の誘致

「知の拠点あいち」を中心に研究開発環境を向上させるため、「あいち産業科学技術総合センター」、「あいちシンクロtron光センター」に続く先端的な研究施設として、国機関等の研究施設の誘導等に向けた取組を推進する。

（「知の拠点あいち」への研究施設の誘致）

- ・ 「知の拠点あいち」の最先端の研究環境と近接する産業集積を強みに、段階的に機能強化を図っていく用地を中心に、国機関等の研究施設の誘致を図る。

< 「知の拠点あいち」の配置図 >




⑫先端研究開発や実証研究の推進

「知の拠点あいち」や愛知県農業総合試験場において、産学行政が連携した研究開発を進めるとともに、「新エネルギー実証研究エリア」等での実証研究を推進する。

(研究プロジェクトの推進)

- 「知の拠点あいち」において、大学等の研究シーズをもとに、企業による事業化・製品化を図るため、産学行政が連携した共同研究開発プロジェクトを推進する。

＜「知の拠点あいち」における産学行政連携研究開発の研究成果＞

難加工性材料の 高性能切削加工技術	食品検査装置	1滴の血液から病気を 検査する半導体デバイス
		
加工した燃焼器ケース	近赤外光異物検査装置 [提供] 豊橋技術科学大学福田研究室	半導体イメージセンサ [提供] 豊橋技術科学大学澤田研究室

- 愛知県農業総合試験場においては、重要性の増す食料問題や食の安全等の課題に取り組むため、大学や企業と連携して、新品種・新技術の開発に取り組み、成果の普及を図るとともに、ICT等の先端技術の導入等による生産性の向上に向けた取組を推進する。

＜愛知県農業総合試験場の配置図＞



愛知県農業総合試験場本場 中央研究棟

＜愛知県農業総合試験場における産学行政連携研究開発の研究成果＞

極めて良い日持ち性を持つ カーネーション新品種	携帯端末で園芸施設内環境を 計測する技術	養液栽培の病害を簡易に 診断する技術
 <p>カーネ愛農1号</p>	 <p>栽培環境モニタリングシ ステム「あぐりログ」</p>	 <p>「高温性ピシウム属菌」の 検出キット</p>

(実証研究の推進)

- ・ 「知の拠点あいち」の「新エネルギー実証研究エリア」では、実証研究フィールドに加え、太陽光発電設備と蓄電池を備えたスマートグリッド⁸を企業に提供することで、新エネルギー関連技術の実用化を支援する。
- ・ 愛・地球博記念公園において、大学、研究機関等に対し、ロボットの実用化に向けた実験の場を提供する。

【主要施策一覧】 ～重点戦略4 研究開発機能の充実～

具体的な取組	2016	2017	2018	2019	2020
⑪国機関等の研究施設の誘致					
「知の拠点あいち」への研究施設の誘致	国機関等の研究施設の誘致				
⑫先端研究開発や実証研究の推進					
研究プロジェクトの推進	産学行政が連携した共同研究開発プロジェクト等の推進				
実証研究の推進	「新エネルギー実証研究エリア」における企業の新エネルギー実証研究の推進				
	愛・地球博記念公園におけるロボットの実証実験の推進				

⁸ 電力の流れを供給側・需要側の両方から制御し、最適化する次世代送電網

3 住みたくなる・訪れたくなる沿線を支える交通基盤の充実

重点戦略5 交通基盤とネットワークの強化

東西の交通アクセスとして、北に名古屋鉄道瀬戸線、南に名古屋鉄道豊田線が位置し、その間を走るリニモは、名古屋の都心につながる名古屋市営地下鉄東山線と、西三河地域と尾張東部地域をつなぐ愛知環状鉄道に接続する名古屋圏の鉄道網の中で極めて重要な役割を果たし、八草駅は三河方面と名古屋をつなぐ結節点としての機能も担っている。

そこで、沿線住民の安全安心な日常生活や、都市間、地域間の人の交流を支える交通基盤の充実とネットワークの強化を図る。

【主要施策】

⑬公共交通の利便性向上

リニモ沿線地域外との交流や連携の推進のための広域交通ネットワークの利便性向上や、沿線住民が快適な日常生活を送ることができるよう、駅に直結する乗合バス、コミュニティバス等のフィーダー交通の維持・充実を図る。

(交通アクセスの改善)

- リニモを中心とした広域的な交通ネットワークの形成において、リニモと愛知環状鉄道との乗り継ぎの利便性向上が重要である。そこで、リニモにおいて導入のICカード乗車券システムについて、愛知環状鉄道においても導入を検討する。
また、八草駅における乗り継ぎの更なる改善のため、運行ダイヤの見直しなどを検討する。

(フィーダー交通の充実)

- リニモ沿線には乗合バスや沿線市のコミュニティバスが発着し、長久手古戦場駅や八草駅では行政区域を越えたコミュニティバスの運行も行っている。引き続き、地域公共交通会議等において生活交通の確保・維持に向けた調整を行い、リニモ各駅を発着するバス路線の維持・充実に努める。
- 日進市では、鉄道や路線バス、コミュニティバス、タクシー等が一体となった公共交通網の形成を目指して、コミュニティバス路線の再編に取り組んでいく。特に長久手古戦場駅と名古屋市営地下鉄赤池駅を結ぶ路線は、両駅に大型商業施設の立地が予定されているなど交流人口の増加が予想されることから、南北の幹線軸として、バスの運行時間やダイヤの充実を図り、民間の路線バス化に向けた調整を行う。
- リニモの開業により、沿線大学への交通アクセスが向上し、リニモ駅を発着とする沿線大学のスクールバス等も運行されるようになった。引き続き、更なるスクールバス等のリニモ駅からの運行を働きかける。

- ・ 沿線住民の生活の足の確保や沿線地域に訪れる人の周遊の利便性向上のために、リニモ駅を拠点とした電動自転車や超小型 EV⁹等を活用するモビリティシェアリング¹⁰等の調査、検討を行う。

(長久手古戦場駅の交通結節機能の強化)

- ・ 長久手古戦場駅周辺は長久手市の新たな顔として、大型商業施設の立地やリニモテラスの整備が進められているほか、日進市の「北のエントランス」として、日進市からの新たな人の流れが見込まれるなど、沿線におけるフィーダー交通の拠点としての役割が期待されており、バスやタクシーの乗降場、またキス&ライド¹¹スペースや駐輪場等の駅前広場の整備を行った。今後は、新たに整備が予定されている愛知医科大学病院バス停との連携等、長久手古戦場駅の機能強化を検討する。

(公園西駅の利便性向上)

- ・ 公園西駅周辺土地区画整理事業地は、県道力石名古屋線で南北に分断されているので、安全で円滑な移動が可能となるよう駅北側の商業地域と駅南側の住居地域をつなぐ横断歩道橋を整備する。
また、公園西駅の東側に新たな改札口を設置し、横断歩道橋に接続することで、公園西駅利用者の利便性向上を図る。
- ・ 公園西駅南側に設置される駅前広場と県道田名古屋線を結ぶ「公園西駅南通り線」を整備することにより、公園西駅へのアクセス向上を図る。

⁹ 超小型電気自動車。「超小型モビリティ導入に向けたガイドライン」(平成24年6月国土交通省都市局・自動車局)では、超小型モビリティを「自動車よりコンパクトで小回りが利き、環境性に優れ、地域の手軽な移動の足となる1人～2人乗り程度の車両」と定めている。

¹⁰ 自動車・自転車等の車両を所有するのではなく、共同で活用すること

¹¹ 家族に鉄道駅、バス停まで送迎してもらい、そこから公共交通機関に乗り継ぐ移動方法

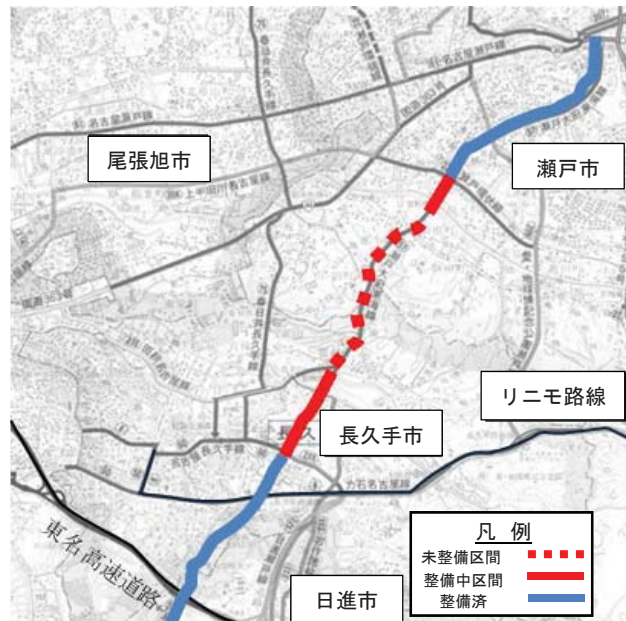
⑭道路交通網の形成

愛・地球博を契機に、東海環状自動車道や名古屋瀬戸道路等の自動車専用道路が整備され、広域からの沿線地域への交通アクセスは飛躍的に向上した。また、今後も沿線地域と周辺地域を結ぶ幹線道路の整備を進め、沿線地域における道路交通網を形成し、交通アクセスの向上を図る。

(県道瀬戸大府東海線の整備)

- 沿線地域を東西につなぐ基盤道路である県道力石名古屋線と接続する県道瀬戸大府東海線の整備を推進し、名古屋東部から南部における環状機能の向上を図る。

<瀬戸大府東海線 道路整備予定図>



⑮「エコ モビリティ ライフ」の推進

自動車と公共交通、自転車、徒歩等をかきこく使い分けるライフスタイルである「エコ モビリティ ライフ」の普及、定着を目指し、公共交通の利用促進やパーク&ライド駐車場の運営等を行う。

(公共交通の利用促進)

- ・ リニモ沿線の宅地開発や大型商業施設の立地等に伴い、沿線道路の渋滞への影響が懸念される。沿線地域への新たな住民や学生に対し、市役所や大学の窓口において啓発チラシを配布するなど、通勤通学や余暇活動での公共交通の利用を促していくとともに、沿線の集客施設と連携して来場の際の公共交通の利用の呼びかけを行っていく。
- ・ 2015年(平成27年)9月12日から11月8日まで、愛・地球博記念公園で開催された「全国都市緑化あいちフェア」期間中、道路交通渋滞の緩和を図るため、普通自動車に係る駐車場使用料の額の改定や臨時のパーク&ライド駐車場の設置、公共交通利用者に対するインセンティブ付与(企画展入場料の割引)を実施した。今後も、大規模イベントの開催時等において、公共交通による公園への来訪を促す取組を検討する。

(パーク&ライド駐車場の運営)

- ・ パーク&ライド駐車場は、周辺住宅地から駅までのアクセスを向上させ、リニモを生かした集約型まちづくりを進めていくのに有効である。引き続き、愛・地球博記念公園駅や八草駅にパーク&ライド駐車場を運営するほか、新たなパーク&ライド駐車場の設置の可能性について検討する。

(交通系 IC カード等を活用した商業施設との連携)

- ・ リニモに2016年(平成28年)3月導入の交通系 IC カード等を活用し、沿線の大型商業施設と連携してリニモ利用者への特典を付与するなど、リニモ利用による来店を促すための取組を検討する。

【主要施策一覧】 ～重点戦略5 交通基盤とネットワークの強化～

具体的な取組	2016	2017	2018	2019	2020
⑬公共交通の利便性向上					
交通アクセスの改善	ダイヤ等の乗継利便性の向上にむけた調査・研究				
フィーダー交通の充実	コミュニティバスの運行 地域公共交通会議での検討 沿線大学へのリニモ駅からのスクールバス運行の働きかけ モビリティシェアリングの可能性の検討				
長久手古戦場駅の交通結節機能の強化	新たな交通結節点の整備に向けた調整・連携				
公園西駅の利便性向上	歩道橋、駅前広場、公園西駅南通り線の整備等				
	新たな公園西駅改札口の整備				
⑭道路交通網の形成					
県道瀬戸大府東海線の整備	道路工事（早期供用を目指す）				
⑮「エコ モビリティ ライフ」の推進					
公共交通の利用促進	沿線住民や学生への公共交通利用促進の啓発 沿線施設や沿線イベントでの公共交通利用の働きかけ				
パーク＆ライド駐車場の運営	愛・地球博記念公園駅北側パーク＆ライド駐車場の運営 八草駅前パーク＆ライド駐車場の運営 新たなパーク＆ライド駐車場設置の可能性検討				
交通系 IC カード等を活用した商業施設との連携	リニモ利用者への特典付与等の検討				

4 主な取組エリア

主要施策の主な取組エリアを示す。

重点戦略	主要施策	主な取組エリア						
		古戦場 長久手	芸大通	公園西	愛・地球博 記念公園	陶磁資料館南	八草	海上の森
1 集約型まちづくりと自然環境の保全	①駅を中心とした概ね1km圏内の計画的な市街地整備の推進	●	●	●			●	
	②市街化を進める地域の機能充実	●	●	●				
	③森林・農地等の緑の適正な維持管理	全域での取組						
	④水や緑のネットワーク形成の推進			●				
2 地域づくり活動の活性化	⑤沿線住民や沿線大学・学生と協働した地域づくり	全域での取組						
	⑥市民活動の活性化	●			●		●	●
3 観光やイベントによる交流の推進	⑦愛・地球博記念公園の充実強化			●	●			
	⑧地域資源の活用による魅力向上	全域での取組						
	⑨広域連携による観光の推進	全域での取組						
	⑩沿線情報の一体的な発信	全域での取組						
4 研究開発機能の充実	⑪国機関等の研究施設の誘致					●		
	⑫先端研究開発や実証研究の推進		●		●	●		
5 交通基盤とネットワークの強化	⑬公共交通の利便性向上	全域での取組						
	⑭道路交通網の形成	●						
	⑮「エコ モビリティ ライフ」の推進	全域での取組						